

平成二十二年二月十八日提出  
質問第一四四号

学校給食への生活習慣病予防の概念取り入れに関する質問主意書

提出者 平 将 明

## 学校給食への生活習慣病予防の概念取り入れに関する質問主意書

近年、大人の生活習慣病もさることながら、小児生活習慣病が問題となっており、その予防が様々な場面で呼び掛けられている。もちろん、生活習慣病予防は小児期から始めることが大切と言われており、学校現場等をはじめとした「食育」の重要性は年を追うごとに高まっているのもその表れと言える。

生活習慣病の原因は、動物性食品、特にその動物性脂肪（飽和脂肪酸とコレステロール）の消費が増えたためであると説明されている。従って、生活習慣病の予防には、動物性脂肪の摂取を控えることが重要である。

よって、次の事項について質問する。

一 先進国の学校給食の実施基準には動物性脂肪（飽和脂肪酸、コレステロール）の制限があるが、日本の学校給食の実施基準には総脂肪の制限しかない。飽和脂肪酸とコレステロールの制限を加えるべきだと考えるが、政府の見解を示されたい。

二 日本の学校給食に動物性脂肪（飽和脂肪酸、コレステロール）の制限が無いのは、「日本人の食事摂取基準」の十七歳以下の飽和脂肪酸とコレステロールの欄が空欄になっているためだと思われる。空欄に

なったのは日本での論証が得られなかったためと推察されるが、世界保健機構は二〇〇三年に「DIET, NUTRITION AND THE PREVENTION OF CHRONIC DISEASES」のレポートで論証の無い国は、飽和脂肪酸を摂取カロリーの十%未満、コレステロールは一日三百mg未満とするように呼び掛けている。二〇〇四年五月の第五十七回世界保健総会において採択された「食事、運動と健康に関する世界戦略」でも国際基準も参照するように呼び掛けている。生活習慣病は開発途上国と新興国に蔓延しており、論証の無い国は多い。早急な対応が求められる中、日本での論証が無いからといって、日本の学校給食で動物性脂肪の制限が必要無いというのは、あまりにも拘子定規な考えではないのか。併せて、今後検討する用意はあるのか。検討すら為されない場合は、その理由を明らかにされたい。

三 牛乳は動物性食品であり、その脂肪は飽和脂肪酸が多い。牛乳の提供は全乳形態が基本となっているが、無脂肪、低脂肪牛乳の提供を基本とすべきと考えるところ、政府の見解を示されたい。右質問する。